9 いつもありがとう

今日は、北九州市小倉北区の小学二年生、光武優真くんの『いつもありがとう』という作文を紹介します。本人の朗読でお聴きください。

『いつもありがとう』

北九州市立南小倉小学校二年　光武　優真

ぼくは、五人かぞくです。

おとうとのたかまさへ。

ぼくのおとうとに、うまれてきてくれて、ありがとう。いっしょにあそべて、ありがとう。

いもうとのまなかへ。

ぼくのいもうとに、うまれてきてくれて、ありがとう。かわいいもうとで、ありがとう。

二人のやさしいおにいちゃんになるようにがんばるね。

パパへ。

いつも、あせをいっぱいかいて、おしごとをがんばってくれて、ありがとう。おいしいごはんをつくってくれて、ありがとう。

体に気をつけてね。

ママへ。

ぼくは、ママにいっぱいありがとうがあります。ママもおしごとがんばってくれて、ありがとう。おいしいごはんもつくってくれて、ありがとう。いろいろなところに、車でつれていってくれて、ありがとう。いっしょにあそんでくれて、ありがとう。ぼくが、わるいことをしたとき、おこってくれて、ありがとう。

ぼくは、ママが大すきです。

ぼくのママでありがとう。

いかがでしたか。

家族一人一人に対する「ありがとう」をつづってくれた優真くん。家族への感謝の気持ちと愛情がいっぱい詰まった作文ですね。聞いているこちらまで心が温かくなるのは、「ありがとう」という言葉が持つ不思議な力のおかげではないでしょうか。「ありがとう」は感謝を伝えるだけでなく、相手に笑顔や活力を与え、自分の心も豊かにしてくれる言葉です。

家族には気恥ずかしくて、なかなか「ありがとう」と言えない人もいるかもしれません。実は、優真くんも普段はそうだとか。でも、作文を書いていくうちに、自然とたくさんの「ありがとう」があふれ出てきたようです。

私たちも、改めて家族や身近な人への「ありがとう」を見つけてみませんか？　そうすれば、今まで当たり前と思っていたことに感謝の気持ちが沸いたり、相手を大切に思う気持ちが強くなったりするような気がします。私たちの周りにも、心のこもった「ありがとう」があふれるようにしていきたいですね。

では、また。